

THE NEXT

～未来を創る人たち～

聞き手

池崎 大輔

さん

・・・

・・・

・・・



・・・ ウィルチェアーラグビーの日本代表選手である池崎大輔が
ゲストを迎えてさまざまなことを語り合う本企画。

今回は、俳優として活躍する一方で映画祭主宰なども務める別所哲也さんを招いた。

ゲスト

別所 哲也

さん

俳優

1/2

池崎 大輔 ウィルチェアーラグビー日本代表選手。1990年、米日合作映画「クライシス2050」でハリウッドデビュー。99年から日本発の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」を主宰。東京都のパラスポーツプロジェクト「BEYOND AWARD 2017」では旗手役を務める。

別所 哲也 俳優。1978年、北海道函館市生まれ。車いすバスケットボールから2008年、車いすラグビー(ウィルチェアーラグビー)に転向。10年4月、ウィルチェアーラグビー日本代表に選出。16年にリオパラリンピックに出場。現在、三菱商事所属。

池崎 大輔 別所さんは若い頃にハリウッドデビューしていますね。それは大変なチャレンジだったのではないでしょうか。

別所 僕は以前、まず俳優になることがすごくプレッシャーでした。家は祖父も父も叔父もみな銀行員。僕が俳優になるって言つた途端、「別所家にそんな人間は一人もない」という感じでしたから(笑)。

池崎 それでも迷いはなかったんですね。

別所 はい。でも本当の試練はオーディションに受かった後。現地へ行つたら英語がまるでわからない。生活に関すること、一つひとつを覚えるところから始まりました。

池崎 僕も世界で戦えるプレイヤーになるためには海外での武者修行が必要だと思い、行が決まった時は不安が9・8割くらい。でも、目標を達成するためにはそこがいい環境だと思ったので飛び込んだんです。チャンスがあるのに諦めるのはもつたいない。今年の10月からの渡米も、今はもう厳しい環境に自分を置こうと決めました。

別所 自分の目標に向かって切り開いていくことがすごいですよね。

池崎 楽な道を選ぶよりも茨の道を選んだほうが得るものはあるかな、と(笑)。

別所 僕はハリウッドデビューしてから10年くらい経つて、映画祭を立ち上げました。ジョージ・ルーカス監督にダメもとで協力依頼のメールを送り、受けたもえたことで日本発の国際短編映画祭が誕生するんですが、始めはいろんな人に「映画祭なんて俳優がやつてもできっこないよ」「俳優として活躍しているんだしそんなことをしな

「いつも“これで十分”とは思えない」

別所 哲也
べっしょ てつや池崎 大輔
いけざき だいすけ

1990年、米日合作映画「クライシス2050」でハリウッドデビュー。99年から日本発の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」を主宰。東京都のパラスポーツプロジェクト「BEYOND AWARD 2017」では旗手役を務める。

1978年、北海道函館市生まれ。車いすバスケットボールから2008年、車いすラグビー(ウィルチェアーラグビー)に転向。10年4月、ウィルチェアーラグビー日本代表に選出。16年にリオパラリンピックに出場。現在、三菱商事所属。

くても」と言われました。周りは僕が「すでに得ているもの」にダメージを与えないよう親切に忠告してくれます。でもそれが成長が止まってしまう気がする。僕はいつも「これで十分」とは思いません。自分が面白いと思ったことや興味のあることを好きなんだりたい。ごく当たり前の人間の好奇心というか、興味の赴くままにね。池崎 そう、人間には好奇心や興味が絶対にあると思うんです。

別所 自分の中にある興味や好奇心の炎が消えてしまったら、生きている意味がない。僕は生きている間はずっと「オン」だと思っているんです。仕事をしていない時は子どもとも思い切り遊ぶし、寝ている時も身体を思い切り休ませるためのオンですね。

池崎 それ、いただこうと思います。「僕のオフは死んだ時だ」って(笑)。

別所 そう! 心臓が止まつてあちらの世界へ行くまでは僕らはオンなんですよ。

THE NEXT

～未来を創る人たち～

ウィルチェアーラグビーの日本代表選手である池崎大輔がゲストを迎えてさまざまなことを語り合う企画。前回に続き、俳優業以外にも活躍の幅を広げる別所哲也さんに話を聞いた。

「時々自分を俯瞰することも大切」

池崎

別所さんは俳優にラジオナビゲーター、国際短編映画祭の主宰……と多くの仕事をされていますが、それをこなす行動力がすごいですよね。

別所

よく別所2号、3号がいるのかって言われますが(笑)、いろんな人を巻き込んでいると思います。気がつけば助けてくれる人がいる。国際短編映画祭がここまで来られたのも仲間ができ、一緒にやつてくれたから。それと、僕は自分がやりたいと思ったことだけでなく、人から求められたことにチャレンジするのも大事だと思っています。

池崎

どうということですか？

別所

僕の存在を見つけてもらい磨いてもらわないと1人では何もできないなって。「一人芝居」

も演出家や照明さんをはじめ、たくさんのスタッフがいて、何よりお客様が来てくださってできる。僕がこんなにいろんなことができるるのは仲間を作っているからです。スポーツも同じでしょ？

池崎

はい。僕が攻撃できるのは、やはりチームメイトが助けてくれるからですね。

別所

いろんな分野で活動すると、まったく違う世界の人との出会いがあります。その出会いが自分を変えたり刺激を与えたり違うチャレンジをしたいと思われたり。もともと俳優をやりたいと

思つた根源にある、表現することで人と感動を分かち合いたいということに繋がっていく。

池崎

いい仲間を得るためにしていることは？

別所

どんどんコミュニケーションを取ります。好きな言葉に「金持ちになるより人持ちになろう」があるんです。生活するにある程度お金は必要ですが、お金がたくさんあつても1人で食事をするには寂しいですね。でも、例えば365人友達がいて毎日おごつてもらえばお金がなくて生きていける。そんな感じかな（笑）。

池崎

別所さんの今の夢や目標は何ですか？

別所

僕は「こうやって生きている人がいるんだ」と感じる人物や物語にすごく興味があります。違

う生き方やチャレンジをしている人に出会うとすごく刺激を受けるし、自分の悩みがちっぽけなこともわかります。それと、僕も池崎さんと同じで海外との繋がりを忘れない。自分のいる小さな世界だけで煩わしいことにかかわっていると、それだけで人生が終わってしまうような気がして。だから、時々自分を俯瞰することも大切だと

思うんです。あとは年齢を重ねたからか、次の世代と一緒に映画をやっている若い人たちをサポートしたい。そこに夢がシフトした気がしますね。

別所 哲也
べっしょ てつや池崎 大輔
いけざき だいすけ

1990年、日米合作映画「クライシス2050」でハリウッドデビュー。99年から日本発の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」を主宰。東京都のパラスポーツプロジェクト「BEYOND AWARD 2017」では旗手役を務める。

聞き手

池崎 大輔
さん

ウィルチェアーラグビー日本代表

ゲスト

別所 哲也
さん

2/2

